

2018 沖縄シンポジウム

# 沖縄とともに

1945年6月23日を心に刻む

戦さ世んしまち  
みるく世ややがて  
嘆くなよ臣下  
命どら宝

戯曲「那覇四町昔氣質」より

2018年 **6月23日** 土曜日 @ 弁護士会館

第1部 13:00 祖父牛島満と沖縄戦を語る

牛島 貞満氏

第2部 14:45 土木技術者からみた辺野古基地建設の問題点

奥間 政則氏

**予約不要・参加無料**

どなたでも参加いただけます、お気軽にお越しください



東京弁護士会

戦争の記憶を風化させないこと。

また、沖縄では今でも県民の反対をよそに新たな基地が造られようとしており、  
沖縄では戦後は終わっていないことを知る。

## 祖父牛島満と沖縄戦を語る

国内最後の地上戦から何を学ぶのか

第1部

講師 牛島 貞満氏

1953年 東京都生まれ。

2017年3月まで、東京都公立小学校教員。祖父は、沖縄戦第32軍(沖縄守備隊)司令官だった牛島満中将。41歳から沖縄で祖父について調べはじめ、2002年から東京で、2004年から沖縄で「牛島満と沖縄戦」をテーマにした授業を行ってきた。沖縄の基地問題について、基地被害の実態を伝える授業や活動を続けている。



## 土木技術者からみた辺野古基地建設の問題点

地盤問題で窮地に追い込まれた防衛局

第2部

講師 奥間 政則氏

1965年 鹿児島県名瀬市生まれ。

2015年から高江の座り込みに参加し、土木技術者としてずさんなヘリパッド建設工事を技術的な視点で指摘してきた。辺野古では海洋土工事の経験を活かして、当初から着目していたケーソン護岸の基礎構造に問題があることを指摘してきたことが、地質学者の協力を得て活断層の問題へとつながった。

辺野古基地建設断念へ向けて理詰めしてくる防衛局に対し理詰めで闘っている。



写真 琉球新報社提供

同時開催写真展

## 米軍機の墜落

弁護士会館1階フロア

6/18日(月)~6/23日(土)

9:00~19:00 (最終日 11:00~16:00)

現在米軍のヘリコプターが沖縄県内にしばしば墜落し、県民の度重なる抗議にもかかわらず改善策をとろうとしない。米軍機の墜落は戦後から継続して、米軍の駐留のもとでしばしば発生している。このことを墜落現場などの写真によって記憶をよみがえらせる。



丸ノ内線「霞ヶ関」駅  
B-1b 出口  
千代田区霞が関 1-1-3

問合せ 人権課 03-3581-2205